

令和4年度特色ある学校づくり推進事業報告書

『知・徳・体の調和のとれた人間形成をめざした体験活動』

あま市立伊福小学校

1 目的

(1) 豊かな心を育む活動

- ・ 特別支援学級において、音楽療法を取り入れ、児童の情操を育むだけでなく、教師もその指導技術を学ぶことで指導力の向上を図ります。
- ・ ハッピートークの講師を招聘し、円滑なコミュニケーション力の基礎を養います

(2) いつでもどこでもだれでもどの子もICT

- ・ ICT環境を活用して、教師の授業力の向上、児童の学力向上・定着をめざします。
- ・ 地域の人材を活用してICT活用、環境整備について研修を行います。

(3) 教師力（経営力・授業力・指導力）UP研修

- ・ 現場経験のある経験豊富な多彩な講師を招聘し、現職教育研修による教師力（経営力・授業力・指導力）向上をめざします。

2 内容

(1) 豊かな心を育む活動

ア 特別支援活動の充実

音楽療法士の若山美幸先生を講師に招き、年間で12回の音楽療法を行いました。数年前から実施している継続事業であり、本校の特別支援教育の特色でもあります。この音楽療法を続けることで、児童が明るく元気に表現する一面が見られるようになりました。新たな自分の発見にもつながっています。また、教師もともに参加することで指導法や楽器の効果的な使用法などを学ぶよい機会となりました。

イ ハッピートーク

ハッピートークの池崎晴美先生をはじめとする専門の講師の方を招き、5年生を対象に円滑なコミュニケーションを図る講演・講習を行いました。4年生時のドリームマップ事業との相乗効果も期待し、児童の人間関係作りの一助となり、温かい声かけができるようになりました。



【ハッピートーク授業の様子】

(2) いつでもどこでもだれでもどの子もICT

ア ICT活用研修講師

ICT講師として指導実績のある加藤直子先生を講師にお招きし、1年生から3年生を対

象にプログラミング教育を中心にご指導いただきました。発達段階に応じた学習内容が展開され、児童の自主性も生かしながらプログラミング的思考を育むことができました。子どもたちは、それぞれ創意工夫を重ねながら、作品作りに楽しんで取り組みました。



【プログラミング授業の様子】

(3) 教師力（経営力・授業力・指導力）UP研修

ア QU研修

QU研修講師（杉村秀充先生）を招聘し、QU結果の見方、児童への支援の仕方などの教師研修を実施し、教師の学級経営力向上を図りました。QUの結果を児童に還元し、児童の個々の成長や学級経営改善に生かすことができました。

イ 授業力向上研修

授業と学び研究所フェロー（和田裕枝先生）を招聘し、指導案作成、模擬授業、授業研究などの教師研修を実施し、教師の授業力向上を図りました。算数科において教師代表による模擬授業を実施し、教師の授業力を磨くことができました。

ウ 特別支援教育研修

特別支援教育の専門家（長谷川修三先生）を招聘し、特別支援教育の在り方、ユニバーサルデザイン教育、事例研究などの教師研修を実施し、教師の指導力向上を図りました。事例研究では、具体的な助言をいただくとともに、教師で手だてを話し合うことで、充実した特別支援教育を進めることができました。

3 評価

- ・ 継続事業でもある音楽療法は、児童が経験を重ねることで自己表現に変化が見られ、成長を感じました。音楽療法に携わる本校職員も指導の参考になる貴重な時間となっています。今後も継続発展させていきます。
- ・ 新規事業であるハッピートークは5年対象に行い、4年時のドリームマップと関連付けるように展開し、相乗効果を期待しました。今後も継続していきます。
- ・ ICT支援員によるプログラミング学習は、発達段階に応じた内容が展開され、充実した取組となりました。次年度は、対象学年を拡大し4年生も対象として、さらに充実させたい事業です。
- ・ QUの結果をしっかりと分析し指導に生かすことで児童の成長が見られました。
- ・ 算数の和田裕枝先生を招いての模擬授業は、教師の授業力向上につながり、児童の学習意欲の向上、学力の向上に直結しました。各教室で子どもたちが主体的に学ぶ姿が見られるようになりました。今後も継続させていきます。
- ・ 近年ますますニーズが高まっている特別支援教育は、通常学級においても必要不可欠なものです。教師の深い理解と適切な指導力の向上が、どの子にとっても安心して楽しく過ごしやすい学校をつくると考えます。

4 課題

- ・ ICTを活用した授業、学校経営が一層求められる時代になりました。3年間の経験で効果的な活用が見えてきました。しかし、よりよい教育活動を展開するには、教師が研鑽を積み重ねることが大切です。ICTだけでなく、学級経営、教科指導、特別支援教育についての研修の充実をさらに図り、子どもたちの成長を支えたいと考えます。